

カラーガイド・旭川

自然を愛し、美しく成長したい

概要版2006



二〇〇六年 旭川市

目次

「カラーガイド旭川」の役割	1P
1. 目的	
2. 色彩景観を考える基本的視点と色彩の伝え方	2P
1) 色彩景観形成の基本的な考え方	
①人工物の色彩コントロール	
②単体ではなく総合的に	
③見え方, 伝わり方	
④調和と変化	
2) 色彩景観形成の視点	
①場所の特性の視点	
②基調色・アクセントカラーの視点	
③色のまとまりの視点	3P
3) 色彩の伝え方	
①色の表示法	
②マンセル表色系の読み方	
③色の表示	4P
3. 色彩景観の現状と課題, 方向	5P
4. 色づかいの手引き	6P
1) 色づかいの基本方針	
2) 色づかいに向けてのポイント	
3) カラーガイドの構成と活用方法	
4) 色づかいの手引	7P
①業務地	
②住宅地	8P
③工業地	9P
④商業地	10P
⑤アクセントカラー	

「カラーガイド旭川」の役割

都市景観は、建物や道路などの人工的要素と、樹木などの自然的要素によって構成されています。

現代の都市景観を構成する素材は、素材技術の発達により、自然素材から人工素材へと大きく変化してきており、様々な人工色がまちに氾濫し、色彩の面でまとまりのない景観となってきています。

景観を形成する基本的要件である色彩は、美しいまち並みづくりを進める上で重要であり、特に建物の形や色については、景観を構成する一要素として、隣接する建物やその場所の雰囲気など、周囲の環境との調和に配慮

しながら決めていかなければなりません。

そのためには、都市景観の色彩を「色彩景観」として意識し、改めて現状を観察するなどして課題を整理し、今後の方向を考えることが望まれます。

このカラーガイドは、旭川の現状を踏まえ課題を整理し、“旭川らしい色”と“場所の特性に基づく色彩のガイド”として方向を見だし、個々の建物や道路、公園などに使われる色彩がより総合的な視点に立って決めていただくための、判断の助力を担うものです。

1. 目的

旭川は、大雪山連峰とそれに連なる山並みに抱かれ、上川盆地のほぼ中央の石狩川流域に開け、恵まれた自然の中に集積した都市です。

旭川市は、これからも自然と都市機能の両者が調和したかたちで成長することを目標に、景観づくりを進めて

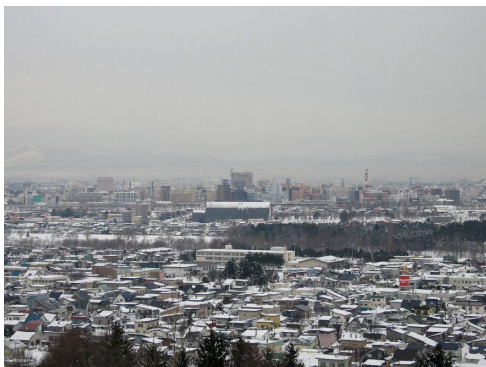
います。この「カラーガイド・旭川」は、旭川的環境色・風土色を踏まえながら、良いまち並みづくりへの手引きとなる色の範囲と色彩決定の手順を示すことを目的としています。



嵐山展望台から見た旭川市街と大雪山連峰
(2006年10月)



旭川駅前から見た平和通買物公園
(2006年8月)



神居町富沢から見た旭川市街
(2006年2月)



水田が広がる東鷹栖
(2006年9月)

2. 色彩景観を考える基本的視点と色彩の伝え方

1) 色彩景観形成の基本的な考え方

①人工物の色彩コントロール

都市景観は自然的要素と人工的要素で構成されています。美しいまち並みをつくるためには、人工物の色彩コントロールは大切な要素となっています。

②単体ではなく総合的に

たったひとつの建物が地域の良質な景観を壊してしまうことがあります。建物等の色彩決定は、隣り合う建物等の色に配慮するだけでなく、背景の自然との調和や、地域の歴史・風土などと関連づけて、総合的に考える必要があります。

③見え方、伝わり方

工事現場では、黄色は注意を喚起するのに使われます。信号では緑は安全、赤は危険を示します。こ

のように、色には様々な意味があります。しかも色は、対象物の距離によっても見え方が変わりますし、時間とともに劣化もします。また塗装においては、もとなる材料によって風合いが変化します。このように色が持つ要素は様々です。従って、見る側の視点に立った配慮が大切です。

④調和と変化

色に対しての人々の好みには、時代とともに変化する部分と変化しない部分があります。流行色は時代を感じさせます。新しい流行色には新鮮さが、過去のものには懐かしさを感じられます。長い年月に耐える普遍的な配色が色彩景観の基本ですが、アクセントとして変化する色を適切に活用することも、まちを魅力的にすることにつながります。

2) 色彩景観形成の視点

①場所の特性の視点

市街地と郊外では建物などの集積密度が異なりますので、視野に入るものが異なり、遠景・中景・近景のどれを重視するかがポイントとなります。また、市街地の自然は、公園や道路、広場の植栽に限られがちですが、郊外の自然は庭や周囲の田園、丘陵などが大変身近となりますので、色彩決定への構成要素が大きく異なります。

商業地、オフィス街、住宅地、工場地など土地の

用途の違いは、活気、落ち着き、楽しさ、清潔感など色彩決定の目標の違いとなってきます。

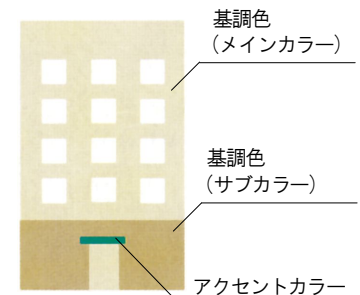
池や河川、丘陵など地形の基本形状との関係は、前景や背景として大切に扱いたいものです。

新しいまち、昔からのまちなどの地域特性もあります。色彩決定は、場所の特性をどのように読み取るかが出発点となります。

②基調色・アクセントカラーの視点

建物の外観は景観への影響力が強大きな面積の部分と、これらの外観に変化や魅力づけをして、まち並みにメリハリをつける小面積の部分で構成されており、これらの配色バランスによって、建物と周辺景観との関係性が良くも悪くもなります。

建物の外観など大きな面積を占める部分の色を基調色(メインカラー及びサブカラー)、扉や窓枠などの比較的小さな部分の色をアクセントカラーといいます。



<基調色 (メインカラー)>

外観の大きな面積を占め影響力が高いため、公共性をもっとも意識する必要がある色。

●通りなどの色彩景観を構成する主たる要素であるため、色彩計画では基調色を特に重視します。

●面積が大きく周辺の自然景観との調和を図るために低彩度の色を基本とします。

<基調色 (サブカラー)>

大きな面積にメインカラーのみを配色した場合に起こりやすい単調さや圧迫感を軽減するメインカラーを補助する色。

●メインカラーよりも暗い低彩度の色や、質感の異なる石材・木材等を用いることによって、外観に変化をもたせます。

<アクセントカラー>

建物のごく小面積に使用し、外観にほどよい緊張感や表情をつける色。

●基調色よりも特に彩度の差を出すことによって効果を出します。

●地域らしさを演出する際、アクセントカラーを建物に共通して使うなどして地区や通りの特徴づけに用いることができます。

③色のまとまりの視点

建物などの色彩でいくつかの色がまとまりを見せ、それが背景ともよい関係を持つようにバランスをとることを、配色調和といいます。

配色調和には、類似調和と対比調和があります。類似調和は似た色味や明るさ、鮮やかさを組み合わせて調和を図る手法で、比較的落ち着いた感じの空間がつかれます。

対比調和は、対照的な色味や明るさ、鮮やかさを組み合わせる手法で、強い調子の表現に使いますが、周

囲の環境を充分考慮する必要があります。

無彩色(白, グレー, 黒)は有彩色と調和しやすく、有彩色同士の組み合わせに比べてシンプルにまとまります。自然を重視した色彩景観では、四季の自然の色が損なわれないように、落ち着いた柔らかい感じの色彩を選びます。

基調色は、類似調和を基本として落ち着いたトーンに、アクセントカラーは、基調色と対照的な色を用い、建物の形状や部位を効果的に演出します。

■配色モデルの例 (戸建住宅)

類似調和による配色モデル



対比調和による配色モデル



3) 色彩の伝え方 (本書に使用している色彩数値記号の読み方)

①色の表示法

色を伝達する方法には、言葉で伝える方法と数値で伝える方法があります。しかし、赤や黄、緑、グレーと色を言葉で表しても、相手に自分の思う色が正確に伝わることはまずありません。一般的に「赤」といっても「鮮やかな赤」「暗い赤」「地味な赤」「明るい赤」

など、たくさんあります。色を正確に伝達するには、言葉ではなく、数値による表示方法が必要です。

本書では、色彩を一定の法則により系統化して数値記号化を図ってある「マンセル表色系」を使用しています。

②マンセル表色系の読み方

マンセル表色系は、アメリカ人マンセルによって考案されたシステムで、色を色相(H:Hue)、明度(V:Value)、彩度(C:Chroma)の3つの指標で表します。

[色相]: 色味の度合い

赤(R)、黄赤(YR)、黄(Y)、黄緑(GY)、緑(G)、青緑(BG)、青(B)、青紫(PB)、紫(P)、赤紫(RP)の10色相が等間隔に配列されています。これを「マンセルの色相環」と呼びます。さらにそのひとつの色を4分割したり、10分割したりして表示します。

[明度]: 明るさの度合い

明度0で表される理想の黒から、明度10の理想の白までの間を等間隔に10分割されています。実際に使用される数値は1~9.5の範囲です。

[彩度]: 鮮やかさの度合い

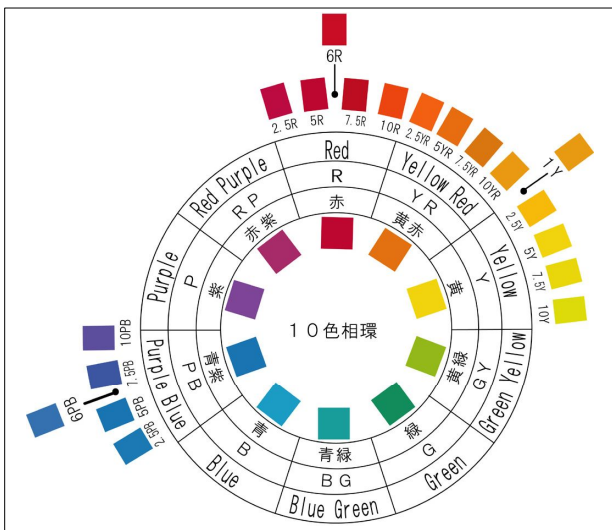
無彩色を0とし、鮮やかさが増すにつれて度数が増えていきます。彩度は色彩によっても異なりますが、最も高い赤の彩度で15~16程度です。

[トーン]: 色の調子の度合い

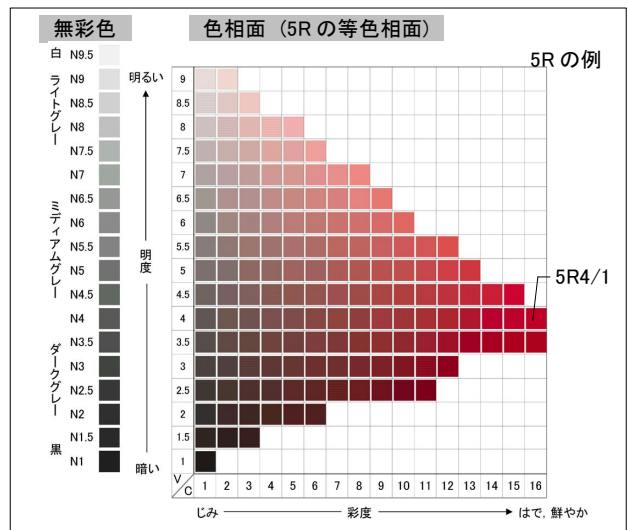
明度と彩度を組み合わせた色の調子を表わします。同じ色合いの色でも、色の明るさ(明度)と鮮やかさ(彩度)が違えば、心理的に異なって見えてきます。この印象を「明るい色」「暗い色」「強い調子」「弱い調子」「柔らかい」「鮮やかな」などの色の調子を表現する形容詞で示し、系統的に分類したのが「PCCSのトーン分類」です。

※PCCSは、プラクティカル カラー コーディネイト システムの略で、日本色彩研究所において考案されたものです。

■マンセル色相環



■無彩色と色相面 (5R の等色相面)



③色の表示 (マンセル表示例とマンセル色度図)

左の色は、旭川のレンガとこれの同色の色見本です。この色をマンセル表色系で表示すると、マンセル値は、



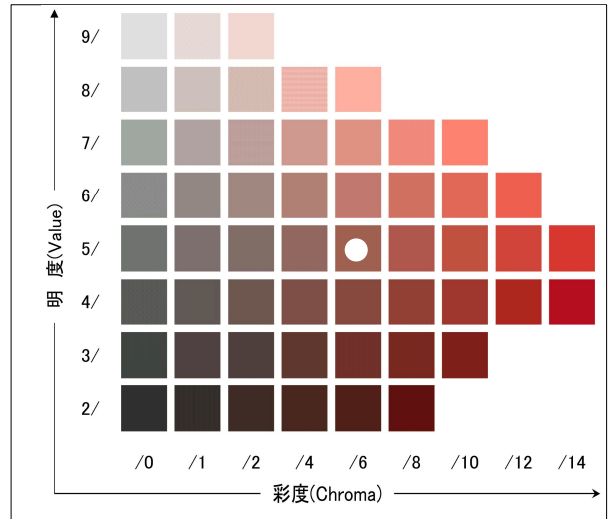
7.5R 5/6
色相 明度/彩度
(読み方: ななてんごアール ご の ろく)

となります。また下図のトーン分布図ではダルトーン(くすんだトーン)に位置します。また、明度が7の無彩色(グレイ)は、



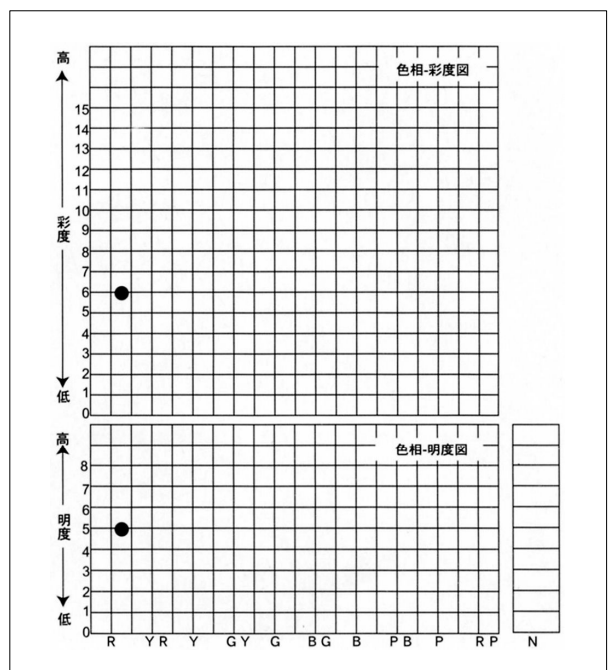
と書きます。(色味のある色を有彩色といいます。) また、色相-彩度図と色相-明度図からなるマンセル色度図(色彩分布図)では、7.5R 5/6の色は上下2つの点で表されます。

■マンセル断面図 (7.5R の等色相面)

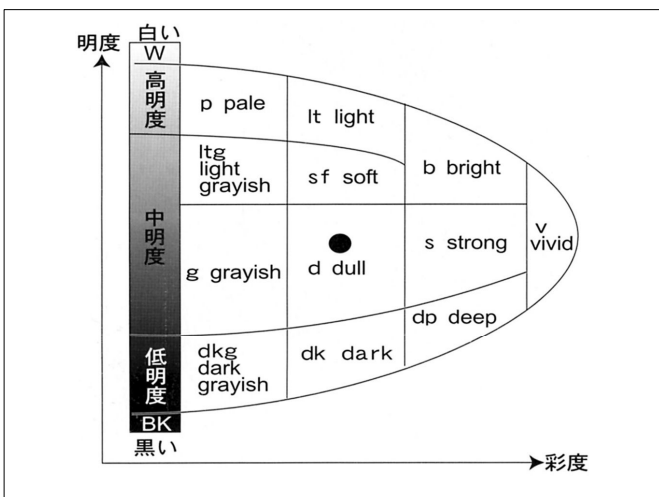


※7.5R 5/6 は上図で○印の位置になります

■マンセル色度図 (分布図)



■トーン分布図



※7.5R 5/6 は上図ではダルトーン(くすんだトーン)となり●印の位置になります

3. 色彩景観の現状と課題、方向

旭川における色彩の特徴を見いだすため、身近な樹木や街路樹、まちを取り巻く森や林、田園や山並み、空などの「自然物の色彩」、また各エリアに展開されるまち並みや建造物などの「人工物の色彩」を抽

出した結果と、平成7年12月に行った「市民の環境意識に関するアンケート調査報告書」の「旭川らしいフレーズ、旭川らしい色」の調査結果からみた、旭川の色彩景観の課題と方向は次のとおりです。

自然と調和する 風土色の活用

豊かな自然に囲まれた都市景観において、雪の「白」や樹木の「緑」は背景色として重要な関係にあります。特に、市街地では街路樹等の緑や草花、郊外では周辺の丘陵や田園風景との調和のために、自然景観と馴染み、親しみが感じられる風土色を活用することや移り変わる四季折々の花々などの自然をアクセントとして色彩景観に取り入れていくことが望まれます。

旭川らしさの 育成と強化

色彩景観は地域の環境特性により色彩の傾向が異なり、業務地では落ち着いた風格、新興住宅地では穏やかで親しみのある色彩景観がつけられつつあります。また、市内には、レンガや木材等の自然素材やシンプルな人工素材を使用した建築物や構造物が点在し、北国の都市を感じさせます。さらに、市民の共有する旭川イメージの色彩群もあります。

これらの財産を基にして、地域の特性に応じた旭川らしい色やイメージカラーを色彩景観に反映させ、育てていくことが重要です。また、市街地では、街路設置物等のトータルな色彩演出により、旭川らしさを積極的に強化していくことが必要です。

秩序感や 連続性による 色彩美の創出

市街地の業務地や郊外の住宅地の一部では、すでに地域全体の調和が図られつつあります。

しかし、にぎわいのある市街地の商業や郊外の幹線道路沿いでは、鮮やかな色彩が氾濫し、雑然とした印象が強く、まち並みの景観を阻害している例が少なくありません。

主な色彩の傾向から大きく突出する色彩は取り除き、周辺の環境との秩序感や連続性に配慮し、町並みに色彩美を創出していくことが必要です。

色彩景観の啓発

色彩は感覚的であり、見え方やイメージのとらえ方には個人差があります。美しくまとまりのある色彩景観の形成には、種々の人工物の色彩決定に係わる人々が、共通した色彩に関する観点や認識を持つことが重要です。

今後、色彩への配慮の仕方や色彩を決定していく手順について、様々な機会を通じて広く理解されるよう努めます。

4. 色づかいの手引き

旭川は、四季の移り変わりがドラマチックで、折々のありさまは、北国特有の淡く美しい色彩であふれています。

一方、北北海道の拠点として、都会の装いや都市機能の発揮が求められており、これからのまちづくりは、そ

の地域の特性やデザイン、色づかいなどにも配慮しながら進めていくことが大切になってきております。

ここでは、これからの現状を踏まえ、旭川らしい色づかいの方針や色づかいに向けてのポイント等を定め、良好な色彩景観の形成のための手順を示しています。

1) 色づかいの基本方針

●風土と調和する潤いのある色づかい

- ・四季とともに移り変わる自然の色を取り入れること
- ・丘陵部や街路樹の緑と調和すること
- ・地場の素材を、材料に取り入れること

●都会の魅力や趣を感じさせる色づかい

- ・拠点としての都会性を醸し出すこと
- ・広がりや開放感を出すこと
- ・安全／安心を表現すること

●地域の特性を活かす色づかい

- ・街角や広場などに地域の特性を活かすこと
- ・歴史／文化など慣れ親しんだ特性を保つこと

2) 色づかいに向けてのポイント

色彩景観の現状を踏まえ、色づかいの基本方針にのっとり地域ごとのメインカラー サブカラー、小面積に用いるアクセントカラーの色彩範囲の指定をしたものが、P.7～10 までの色づかいの手引きです。

また、色彩を決定する対象の性格や条件、周囲の状況によっては、色彩範囲外となることも予想されます。その際には、場所の特性を活かし、周囲との

調和を図ることで良好な色彩景観の形成を進めることが重要です。

この「カラーガイド・旭川」では、色彩景観への配慮のための目安として形状や素材について触れていませんが、景観を考える上で形状や素材などに注意しながら次項からの色づかいの手引きをもとに配色を決め、良好な色彩景観を形成します。

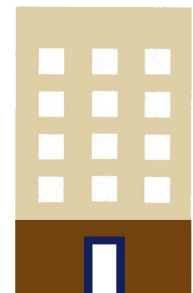
3) カラーガイドの構成と活用方法

建造物の計画にあわせ、次のような手順で決めて下さい。

- ①建造物のサンプルカラーの中から、いくつか選びます。
- ②メインカラーには、地域の特性や建造物の性格を考慮し、調和のとれた色を選びます。
- ③メインカラーを基調に、建造物に応じてサブカラー、アクセントカラーを選びます。
- ④素材や仕上げの方法によっては、色彩の印象が異なるので、現物見本で確かめます。



































































メインカラーの選定



































サブカラー、
アクセントカラーの選定

4) 色づかいの手引

①業務地						
色彩景観のコンセプト		<p>街路樹の緑や上質感のある自然素材と調和した格調高い色彩景観 行政施設やオフィスが集まる業務地は、道北の拠点都市としての風格が感じられる色彩景観が目標になります。キーワードは「モダン・シック」です。</p>				
色彩の考え方		<p>[基調色は低彩度の暖色系から選定] ・街路樹の緑が映えます。 [サブカラーはメインカラーよりも低明度で低位置に配色] ・建物の圧迫感を低減するとともに安定感が感じられます。 ・歩行者の視野に入る低層部(1～2F)に、サブカラーとして石材やレンガなどの自然素材を用いると、通りが柔らかい雰囲気になります。 [同一色相・類似色相の配色で構成] ・落ち着きやまとまり感に重きをおきます。 ・基調色と類似色相の自然素材、アクセントカラーを用いると、上品な感じを出すことができます。</p>				
色彩範囲		サンプルカラー				
基調色	メインカラー	[色相] 5R(赤)～10Y(黄)、 N(無彩色) [明度] 6～8 [彩度] 2以下	 5R6/1	 5R8/1	 7.5R7/2	 10R7/2
			 5YR7/0.5	 5YR7/1	 10YR7/1	 10YR7.5/0.5
			 10YR7.5/1	 5Y6/1	 5Y7.5/1	 5Y8/2
			 7.5Y8/1	 10Y6/1	 10Y8/2	 N7.5
	サブカラー	[色相] 5R(赤)～10Y(黄)、 N(無彩色) [明度] 4～6 [彩度] 2.5以下	 5R4/1	 5R5/2	 7.5R4/2	 10R4/1
			 2.5YR4/2	 5YR5/1	 5YR6/2.5	 7.5YR5/2
			 10YR5/1	 10YR6/1.5	 2.5Y4/2	 5Y4/1
			 5Y6/2	 7.5Y4/2	 10Y6/2	 N5.5

②住宅地						
色彩景観のコンセプト		<p>豊かな自然の緑や草花が生活を彩る色彩景観</p> <p>丘陵や田園風景が広がる住宅地域は、周辺の自然と調和した快適な生活空間づくりが目標です。</p> <p>多様なライフスタイルを反映する住宅の色彩は、バラエティに富みますが、共通するキーワードは「ナチュラル」「穏やか」です。</p>				
色彩の考え方		<p>[基調色は低彩度色から選定]</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒色（B～PB系）は高明度、暖色（R～GY系）は中～高明度とし、緑との調和を重視します。 <p>[アクセントカラーにホワイトや素材色の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 窓枠やドア部に用いると明るいイメージとなります。 <p>[屋根色は無彩色または低明度・低彩度色から選定]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域全体の落ち着きとまとまり感に重きをおきます。 <p>[類似色彩や類似トーンの配色で構成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ナチュラルな変化が期待できます。 				
色彩範囲		サンプルカラー				
基調色	メインカラー	[色相] 5R(赤)～10PB(青紫)、 N(無彩色) [明度] 6～8 [彩度] 2以下	 5R8/1	 7.5R7/2	 10YR7/0.5	 10YR8/0.5
			 5Y7/1	 5Y8/1	 2.5GY6/2	 5GY7.5/0.5
			 5G7/0.5	 10G8/2	 2.5BG8/2	 5B7/2
			 10B7.5/0.5	 5PB7/0.5	 10PB6/2	 N6.5
			※郊外の住宅のメインカラーは、サブカラーの色彩範囲からも選択可能ですが、特に寒色系(G緑～B青)は注意が必要です。			
基調色	サブカラー	[色相] 5R(赤)～10PB(青紫)、 N(無彩色) [明度] 5R～10PBは4～6、 Nは8以下 [彩度] 3以下 ※ただし 色相10R～10YGは 明度3～6	 7.5YR5/2	 10YR6/1	 2.5Y4/2	 5Y6/1
			 10Y5/1	 7.5GY4/1	 7.5GY6/2	 5G5/1
			 2.5BG6/2	 7.5BG4/2	 5B4/2	 7.5B5/2
			 7.5PB5/2	 10PB4/2	 N5.5	 N8

③工業地						
色彩景観のコンセプト		<p>周辺の植栽と調和した開放的な色彩景観</p> <p>郊外の大規模施設が集積する工業団地は、周辺の自然と調和した「明るい・開放的」なイメージを目標とします。</p>				
色彩の考え方		<p>[基調色・屋根色は低彩度から選定]</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の地域よりも低彩度色を基調とし、突出感、圧迫感や重量感を押さえます。 <p>[サブカラーはメインカラーよりも低明度色を選定]</p> <ul style="list-style-type: none"> 明るいイメージを強調します。 <p>[アクセントカラーから企業の個性を創出]</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本色の色相やトーンに差をもたせると、企業の個性などを表すことができます。 				
色彩範囲		サンプルカラー				
基調色	メインカラー	<p>[色相] 5R(赤)～10PB(青紫)、 N(無彩色)</p> <p>[明度] 5R～10GYは6～8、 G～PBは6～7.5、 Nは6～8</p> <p>[彩度] 2以下</p>	 5R8/2	 10R7/1	 5YR8/2	 2.5Y7/1
			 5Y8/1	 10Y7/0.5	 5GY8/0.5	 2.5G8/2
			 10G8/1	 5BG7/0.5	 2.5B8/2	 10B6/1.5
			 2.5PB7/2	 5PB6/1	 10PB8/2	 N7
	サブカラー		 5R4/1	 10R5/1	 5YR6/2	 10YR4/2
			 5Y4/0.5	 10Y6/2	 5GY4/2	 10GY4/2
			 5G6/2	 5BG4/1	 5BG5/2	 2.5B4/2
			 7.5B4/2	 7.5B6/2	 5PB4/1.5	 7.5PB5/2

④商業地	
色彩景観のコンセプト	旭川らしく、上品でにぎわいのある空間を演出する魅力的な色彩景観 市の中心部の商業地域は、旭川らしさが感じられ、かつ「魅力的な、新鮮」なイメージを目標にします。商業地は、市場などの庶民的な「にぎわい」から、ブティックの立ち並ぶところの「落ち着いたき」のある雰囲気までの幅の中で考えます。
色彩の考え方	<p>【基調色は低彩度色から選定】 ・ショウウィンドウや装飾物の色彩をいかします。</p> <p>【アクセントカラーは基調色の色相やトーンと差を出して演出】 ・旗やポスターなどに用いると、街区や通りの個性、季節感などを演出します。</p> <p>【類似色相や類似トーンによる配色で構成】 ・上品なにぎわい感を演出します。</p> <p>【屋外広告物や看板は周辺景観から突出しすぎない色の使用】 ・鮮やかな色を使用する場合は全体面積の1/2以内とします。</p> <p>【郊外の大規模小売店の基調色は低彩度の暖色系から配色】 ・周辺の環境や樹木など自然と調和します。また、市街地商店街などの商業施設よりも色数を少なくするなど落ち着いたきを重視します。</p>
色彩範囲	サンプルカラー
商業地に関しては、色彩範囲及びサンプルカラーを提示しておりません。 色彩景観のコンセプト及び考え方によって選定して下さい。	

⑤アクセントカラー	
色の考え方	<p>【メリハリのある色彩景観を演出】 ・小面積の“図”となるアクセント部分は、“地”となる人工物の色の色相やトーンに差をもたせて、変化をつくりだします。 ・建築物は、小面積の手摺や扉、窓枠などのポイントとなる素材や部位に使用します。 ・街路設置物は、サインのポイントとなる素材や部位やモニュメント類に活用します。 ・小規模の街路設置物は、設置本体がまち全体のアクセントとしての演出効果もあります。</p> <p>【通りや町並みの連続性を演出】 ・街路設置物が連続する場合は、ラインを構成するものとして単体として突出する色は避けるべきです。</p>
色彩範囲	サンプルカラー
[色相] R(赤)～RP(赤紫)、N(無彩色) [明度] 5G(緑)～5YR(黄赤)は4～7、 5YR(黄赤)～5G(緑)は4～8、 Nは8～9 [彩度] 5～7	 5R8/6  10R8/6  5YR5.5/7  5Y7/6
	 10Y7/6  10GY6/6  5G6/6.5  7.5BG5/6
	 5B6/6  5PB4/6  2.5P7/6  7.5P6/6
	 2.5RP5/6  7.5RP5/6.5  10RP5/6  N8.5
※アクセントカラーは、その性格上すべての色を許容しています。ただし、黄色、緑系(以外5G～5YR)の高明度・高彩度色を使用する場合は注意が必要です。	

カラーガイド・旭川
1997年11月
2006年11月(概要版2006)

発行 旭川市
編集 旭川市都市建築部景観課
〒070-8525
北海道旭川市6条通10丁目
電話：0166-25-8561

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/keikan/index.htm>

